

「加速度思考」で夫サ・ポート

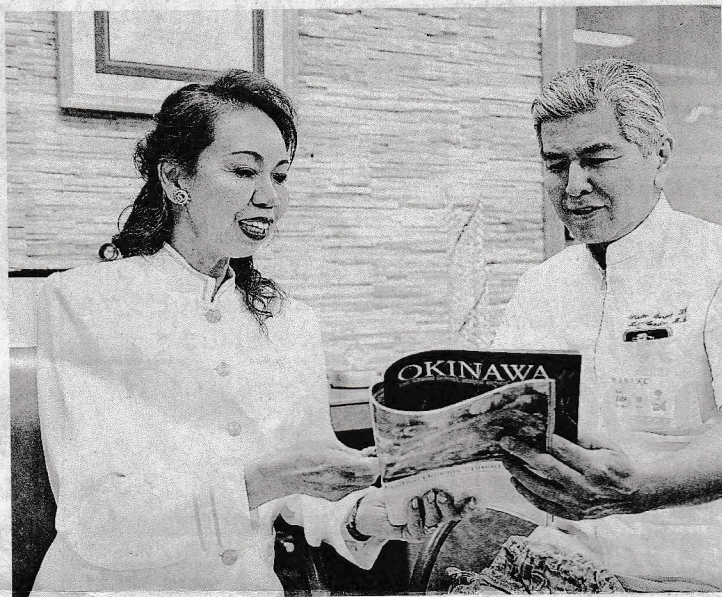


形成外科KC
エグゼクティブ・マネジャー
新城 カーミー和子さん

那覇市久茂地、タイムスビル6階にある医療法人こころ満足会「形成外科KC」(新城憲院長)。同院のエグゼクティブ・マネジャーを務めるのが、新城カーミー和子さん(59)だ。名護市出身の憲さんと出逢って36年。「Ken」と「Carmy」、夫婦の頭文字を名前にしたクリニックは昨年、開業10周年を迎えた。20年余、勤務医で培った技術力、海外の実績、最新治療を求めて、多くの患者が「ドクター憲」を訪ねてくる。「メスを握って天職を全うしたい」という願いが詰まったクリニックで、カーミーさんは経営一切を担い、夫の活動環境を整える「縁の下」の力持ちだ。院内は緑色のバラで彩られ、施術室はまるでラグジュアリーなホテルのよう。

こうしたひらめきを形にするのもカーミーさんの仕事。「医学と感覚的な美のバランスを目指しています。例えば乳がんで乳房を失っても、再建手術で美を取り戻せる。体も心も健康に、それが調和です」。「カーミー」とは長年インストラクターを務めるヨリガ名。「思い立ったら即行動の私に、寂靜を意味する『Calm』(カーム)から師匠が付けてくれたんです」と笑う。思い立ったが吉日と、突進する自身のことを「加速度思考」と表現する。8年前から続いているドバイの診療も、この加速度思考から始まった。開業当初、理想通りにいかず、肩を落とす夫に勧めたのが、アラブ首長国連邦での医師ライセンス取得。「急成長する未来都市ドバ

大胆発想でドバイに道



クリニックの待合室で、院長で夫の憲さんと打ち合わせをする新城カーミー和子さん＝那覇市久茂地、形成外科KC

イに、直感的な可能性を感じました」。現地の事情に詳しい人物との出逢いもあり、取得に向け動きだす。申請から書類審査、面接と、夫婦で沖縄とドバイを行き来しながら、3年がかりで免許取得にこぎつけた。クリニックと県立病院のオペもこなしながら、3カ

月に1度、ドバイに渡る夫を支える中、股関節の手術も経験した。「これも人の痛みが分かるようになるための学びです。さまざまな悩みを抱える患者様に寄り添い、最良の提案で喜びをシェアしていくことが願いです」。加速度思考で今日も課題解決に奔走する。

あらしろ・カーミー・かずこ(本名:新城和子) 同志社大学文学部英文学科卒業、成年。形成外科KCエグゼクティブ・マネジャー。認定ヨーガ療法士、英国ボディコントロールピラティス国際ライセンス保持者。夫との共著『奥さまは加速度思考』(新星出版)。